FD 研修では何をトレーニングするべきか

向後千春*　　多喜翠**
早稲田大学人間科学学術院*　　CRI**

1. 目的

本研究では,大学教員がFD研修の中で期待することを明らかにし,大学内のFD研修で何をトレーニングするべきかを検討することを目的として,教員が普段行っている授業について質問紙調査を実施した.

2. 方法

調査時期は,2018年11月7日と20日であった.２か所の私立大学で開催されたFD研修内にて,大学教員を対象に質問紙調査を実施した.質問紙は,(1)あなたの普段の授業について,何か困っていることはありますか,(2)あなたの普段の授業では,どのような工夫をしていますか,(3)あなたはどのような授業が理想的だと思いますか,以上の３問からなる自由記述形式で構成された.

3. 結果

回答者は常勤の大学教員 42 人（男性 26 人,女性 16 人）であった.そのうち,未回答を除く 31 人（男性 21 人,女性 10 人；平均年齢 49.1 歳,*SD*=8.98；平均勤続年数 11.8 年,*SD*=9.08）の回答結果(有効回答率 73.8%)を得た.これらの回答を分類した結果,「成果」「プロセス」「態度」の３つの側面がみいだされた（**図１**）.３つのそれぞれについて,次のようなストーリーラインが考えられた.

(1)学生の成績が伸びることを理想とする教員は,学生の学力や理解度を考慮しない画一的な授業内容に限界を感じ,授業前後の課題によって,学生個人の理解度を図っていた.

(2)学生の授業への積極的な参加を望む教員は,学生が興味をもって参加したくなる授業内容が必要であると考え,グループワークを頻繁に取り入れていた.

(3)学生の能動的な学びを理想とする教員は,学生の授業内での反応を引き出すため,リアクションペーパーを活用するなどして,教員と学生の双方向のコミュニケーションを図っていた.

4. 考察

本研究での調査の結果,教員は,学生に求める理想によって,授業の在り方を模索していると推察できる.教員が学生に求める理想は,次の３つに大別される.(1)成績や知識の伝授といった「成果」,(2)授業内容に興味を持ち,自ら積極的な姿勢で臨む「プロセス」,(3)そして授業後も学習意欲を継続させ,能動的に学び続ける「態度」である.しかし現状では,これらをかなえるだけの授業設計を,自信をもって実行できる教員は少ない.教員がそれぞれ行っている創意工夫も,そこに論拠がなくては十分な効果に結びつけることはできないだろう.

以上のことから,学生に求める理想を考慮した上で,実践的な授業設計手法と学生の学びを支援するための教員の関わり方を FD 研修でトレーニングすることが必要であるといえるだろう.

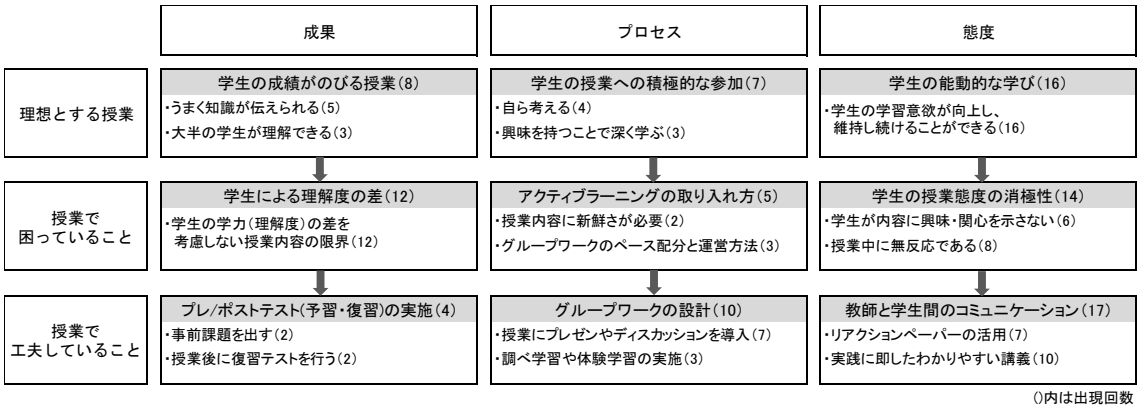

図１．カテゴリ関連図